

61:11

Family Correspondence: unidentified letters

n.d.

ALL INFORMATION CONTAINED
HEREIN IS UNCLASSIFIED
DATE 01-01-01 BY 60320
(U) 60320

86/97c

January 30, 1960

Dear Mr. Uchida,

How very nice it was to have you visit with us during your brief stay in Honolulu! We only wish that you could have stayed longer. As usual, we were very much impressed with your vigour... We certainly wouldn't have been able to keep up ^{with} that kind of pace. Then, too, you always manage to do something interesting — this time: the tape recording of your friends' voices. It was most interesting!

It was thoughtful of you to remember us with such lovely gifts! Thank you, thank you very much for the lovely earrings. It will be a joy to wear them ~~for~~ special occasions.

I'm sharing The Promised Year with the librarian at our school. She is advisor to the Bookworm Club (~~exp~~ upper grade children who are avid readers) and she told me that already four girls have read it and that others are eagerly awaiting to read it. In fact, she was afraid that the cover might be a little worn out by the time I got it back.

You might be interested to know that in the Feb., 1960, issue of The Instructor ~~that~~ there appeared a favorable review of Yoshi's book. If the magazine were mine I would not hesitate to cut the review out... but let me just quote:

Books for Children

Reviewed by Phyllis Fenner

(Author + Reviewer of Children's Books)

Two quiet, pleasant, and interesting books about children of modern Japan have the marvelous quality of increasing in interest as one reads, and of staying in one's thoughts for a long time. The Cheerful Heart by Elizabeth Janet Gray, teacher of the Crown Prince, illustrated by Kazuo Mizumura (Viking; \$3.00) tells of the discouragements and disappointments of a family who had been bombed in Tokyo, and of eleven-year-old Tomi who has a cheerful heart during this difficult time. Ages 9-12

The Promised Year, by Yoshiko Uchida, illustrated by William M. Hutchinson (Harcourt; \$3.00), an equally good story, tells of Keiko, who comes to California to spend a year with relatives. Homesick even before leaving

the harbor, she makes friends with Auntie Koko, who gives her a cat. Uncle Henry doesn't seem to like her or the cat. Keiko found a way to help his uncle, and came to understand and love him. Ages 8-12

(right under the review is a picture -

Uncle Henry is presenting tea to Keiko (seated on a chair) towards the end of the story).

Perhaps you have already seen and read this ... but I just wanted to be sure.

I know it's presumptuous of me but I'm looking forward to Yoshi's next book.

Mother also thought you might want to keep this newspaper clipping about Mr. Yokomoto. It appeared sometime last year and she had intended to send it to you right away but somehow always sealed her letters first and thought about it too late. So now, here it is ... better late than never.

We are also sending the black and white snapshots Dick took during the earlier part of the dinner. (He wasn't

so sure that they would turn out because he thought he had colored film in. We at first had the film developed; since the negatives looked all right we had prints made. Fortunately they turned out all right). We'll send the airport shots as soon as they are ready.

I gave your greetings and thank you to Janet on Sunday and she said, "Oh my, he's so prompt!" She really enjoyed the tour you took us on during our last visit. She'll be going with me to Milwaukee.

Mrs. Uchida and Yoshi — how we wish we could have seen you also. We hope that you are well... We can just imagine what an interesting time you're having catching up on the your Dad's experiences in Japan. It was so nice having him in Honolulu again.

Aloha for now...

Edith

今日小包と二通のお信が、居る。一、相変わらずお信は、中様まで、
でもおえ気が、何より嬉しく有。先々松岡さんのお宅で認める。石
寄書はもうお読みして下さりましう。あの時は東京に夢を見てゐる松を
氣持どけを言ひたれども、今はお読みになつて下さう。氣にかゝりながら、
ゆつくり書く時を祈つてゐる。淑子さんは東京に二週間の予定の由
でいたが私の勝手ではねがな。三日は文化の日で終りの日。それが休暇を三日
ほど休むだけで私達の知人も訪問出来ると思ひ六日を待つてゐた。さう
在。それで私達は土曜日の夜行で京都を發ちまして二日の朝六時半には品川
駅着。すぐに南品川の世話になる。お寺に参りし。丁度この妙持寺の
管長様が、お出迎になつていらしてそのお寺のお上人様ともぐいにとてもや親
切におつて下さる。二階のは當りのよい立派なお部屋を二間下まきし。
右、管長様のお居間。左、管長様の下の奥の部屋に居る。私達の
為にあきなりにも丁寧なおつて下さる。東室にもつたりなると
思ふ。七時過ぎになると松岡様に電話し。そして初めて淑子さんの
お話を聞か。聲を聞く。お出掛け。胸がわくわくした。そして打合
せをして私達はずいとおあけをし。電車まで下北沢まで行き、そこに淑子さん
がい。そして待つて下さる。思いが抱きつく。本当に劇的シーンで
したわ。夢に見た一瞬ですものね。現実と信じるのが困難な位。石、
それから松岡様。お二人の「すや、こい」道を淑子さんたちがよく覚えていて、
て行く。下まきし。た。松岡さん御夫婦がお出掛けされる時、夕食迄には帰つて
来る。一しよにする。から是非ゆつくりする。松岡さんととても親切に言う。下まきし
の。すけれども学校増田さんを訪ねるつもりで京都から松岡の一かど
を持つて来て、いたまなかの中に差上げたり。た。松岡様も増田様も同じ様
に京都の松岡一かどと梅月の一箱を持ち寄り来た。お留守中においと書いて
淑子さんも行く。おやつ。やうな。ゆつくり午後増田様をお訪ねし。た。や親切

に於てやそ下さる松岡様に在るにすぎないと思ひ、をが少々の敷の内に予定を定めて居るうに勝手ではが自分達の予定通り行てゐる。運よく増田様のお父様がおいになつてしばらくお話しするが中京族の方は皆お出わけにお目にあはる事が出来るやうな。夕方おいとて淑子さんと下北沢行の電車でお送りしてお別れするつもりでゐるにしてもやそくおつてやそつて渋谷のデパートの食堂で母と私に夕食を中馳走して下さりまして私達もお言葉にあやうござんた。渋谷からはバスでよくかるとおつてやそつてバスの乗り場でお見送りして私達はお寺に帰りぞんた。その翌日は淑子さんはおおはれで一とお話しめするでお会いせが私達は目黒の父の古い友人で台南市長たる方とそよから林おまゝさんの息子さんのお宅を訪問して中野の父方の親戚の所に行き引きとめられてその晩泊まり聖地といこの案内で銀座に出て日劇で映画と知シシがチームの秋の踊りを見せてもらひ、早川のお寺に帰るといふ言ても聞かれが又中野おまゝ連れて帰るとその晩も又泊めてもらひぞんた。その日も淑子さんはおおはれと聞てソソいでお電話もしぞんて聖地私は鎌倉を知りたが女を行て見ようか等と話してそなたすが雨降り駄目になつたが淑子さんにお電話しぞんた。二時に新橋駅で会いとの事で私達もおかけぞんた。淑子さんは塩田さんにはレストランでお書をあらはれになつたのとあやそそで塩田先生と奥様に紹介して下さつて私達も中振振致しぞんた。其所で先生方はカーで帰られ淑子さんは私達の買物につき合つて下さりぞんた。雨が降り止まなかつたがバスでお送りして私達は早川のお寺に帰り管長様はもうお都に帰られ左あとでひし左が又一晩泊めてもらひぞんた。行く先にはY.M.C.A.にでも泊るつもりでゐる教会で知らな方に問い合わせたりぞんた。左が送るもソソく結核思ひかけたりお寺で親切をおもてたりをソソくぞんた。聖地は朝早く駅で淑子さんに会い九時祭の持参つはめそでちるを敬ちぞんた。松岡様のお父様、息子様、増田様のお父様、おまゝ様、それからおかけぞんた。

林おきさまの息子さんをお訪ねなすにお目にかけられませんか。だが私達に渡す
稿にと言ひ置いとあるところ。で淑子さんの本をいただきました。小包で送る
お礼の今ね居りやうとお返してませんが大きな立派な中本で字も美なり
で日本の有名な茶室や佛像や、奈良の正倉院の文物やその他いろいろ
の事か英語で説明してあるのびきつと素敵に描いてあるかと思ひます。
今朝美術ちゃんが教会の帰りに寄りました、とても元氣で今居るお氣
の方達が皆い、方ばかりで忙しく働いて居るそうなんです。早く淑子さんに会
ひたいそうそう。それから午後は省三叔父様が来られやけり何時で
も淑子さんに泊りに来られてほしいとの事なんです。マ、マの方の執類は皆
食相で申訳をくれれば、お持ちだけは豊かにありの事、のおもてなすを
しようと叔父様とも話合はれたことなんです。松岡さんの様子を激
な生活の方でも私達を慰める為でもあるのびしううけれど、もう
足りなうことはあり言うていらつしやるのですよ。人間の慾こそ取りの
ないもので満足の限度を知る私達の方こそむしろ幸福なうかも知
知れませんか。いろいろの方を訪問する事も一つの勉強になりやう。
ミス・シヤイヤールから望月さんからもお返す一枚来るとの事。本當にどうして
でしうね。すきやきディナーは全く私達の為にお母様にお忙しと思ひをお
かけして申訳をいらつしやう。シヤイヤールさんは私達には何れもく、来りかっ
たと話して居られやうだが外人の方であるとして居られようのびしうう。でも
先生である望月さんがお返す一枚お返しとはお返すのですね。前にシヤ
ヤールさんがお茶に来られなす二度とも望月さんを誘われやう。だが忙しいとの
理由で断られて来られやう。(電話で)来りなすでも私達も困るだけで
すけれどお母様の方にお手紙は出してほしいと思ひます。ね。早石さんを通
じて淑子さんに学校で何か話してほしいと頼まれなすうで母はね本から来り世
話をなすも帰れば市札状をよこす人は殆どないという様子を話していらつし
と一人ではなす。淑子さんは話す事はきらいといひ断られなすうです。が……

伯父様も伯母様も淑子さんを遠くにはお連れしてお帰しなさいと思ひますが
そのお陰で私達が之を喜んでゐるから暫くの間何卒我慢なさ
る下されね、もうぬえにいらして殆ど一月目にやうね、淑子さんも
体のことは自分でもう氣にいらして大層にいらしてやうね。

伯父様も伯母様も何卒此の間中大切になさう下さりませ。

淑子さんのお宿が新島会館だと都合がいいやうと勝手な事を考へ
て居るが、それが武岡さんのお宅へいらしてやる様になるうういひです。
おなぐわしいやうは伺つてませんけれども……

いふやうな事もありませんが、今後は之位にしておきます。

伯母様お度々が、おそれ様に何れもかゝつて讀んで下さいね、すぐに
ゆさゝいふになつてゐるやうに思ひます。では又。

十一月九日

送代

内田伯父上様
伯母上様

[illegible]

あやうく大変な幸福さうでほななうわーい

予方取
心方
蔭方
蔭方

婦どもお帰し申あちこちへのはつつかんが大変です

皇太后と和松田先生并におうとて格別なること

存
多
この地は
誰と誰と
生活の
人々に
懐い

その中、手紙を下さる方、十分感謝はしております。

やほり 考かたげれば 通へ せんものね

毎日のいお矢氣がつい
そ何より

鎮痛消炎剤

ロイヒ膏

ロイヒ膏の特徴

本品は持続性の薬剤ロートエキスとイヒチオイルを主薬とし、これに即効性の薬剤サリチル酸メチール、カンフル、メントール等を配合した真に「貼つてよく効く」渗透剤で、旧来の貼付薬の様に一時的なものではありません。

即効性の薬剤は貼つた瞬間から迅速に患部に渗透し、其組織の血行を旺盛にして新鮮な活力を与へ、而も即効性の薬剤消失後も持続性の薬剤に依つて完全に痛みを去り凝りを和らげ、過敏となつた神経を静めて、速かに疲労を恢復する一歩進んだ消炎鎮痛貼付薬であります。

效能

肩の凝り、腰の痛、神経痛、ロイマチス打撲傷、捻挫、頭痛、歯痛、運動後の筋肉疲労

成分

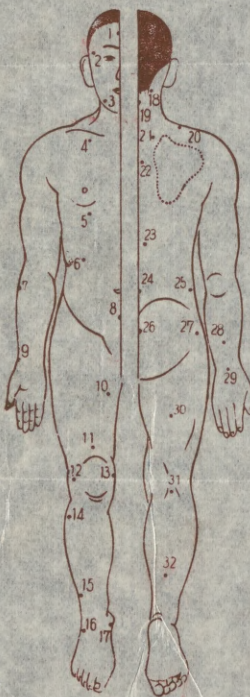
ロートエキス	五・〇	%
イクタモール	五・〇	%
サリチル酸メチール	五・〇	%
薄荷脳	一・五	%
薄荷油	一・五	%
カンフル	三・〇	%
ゴム膏体	七九・〇	%

価格

十二枚入 五十円
廿六枚入 百円

使用法

表面のセロファンを剥がし、其のままか、又は適當の大きさに切り痛み個所に貼つて下さい。同時に左図人体説明図の圧痛点（俗にツボと云ふ）を利用して貼りますと、医学的、薬理学的に一層效力を増し、効果は倍加します。



（病 名）

（貼付個所）

- 肩の凝り
 - （イ）胸部より起る場合.....4. 20. 21. 22.
 - （ロ）胃腸部より起る場合.....20. 21. 23.
 - （ハ）婦人病より起る場合.....8. 20. 21. 26.
 - （ニ）高血圧より起る場合.....19. 20. 21.
 - （ホ）過労より起る場合.....20. 21.
- 腰の痛み.....24. 26. 27. 14.
- 神経痛
 - （イ）坐骨神経痛.....14. 27. 26. 30. 32.
 - （ロ）肋間神経痛.....4. 5. 6. 23.
 - （ハ）腰神経痛.....25. 24.
 - （ニ）撓骨神経痛.....7.
 - （ホ）股神経痛.....10.
- 頭痛
 - （イ）偏頭痛.....1. 2. 18.
 - （ロ）後頭痛.....18. 19.
 - （ハ）其の他より起る場合.....1. 8. 19. 23. 26.
- 打撲傷、捻挫
 - （イ）足の場合.....15. 16. 17.
 - （ロ）手の場合.....9. 28. 29.
 - （ハ）胸の場合.....4. 5.
- リウマチス
 - （イ）足関節.....15. 16. 17. 13.
 - （ロ）膝関節.....11. 12. 13. 31.
 - （ハ）腕関節.....9. 28. 29.
- 歯痛.....3. 20. 21.

製造発売元



日神薬品工業株式会社

東京都中央区日本橋本町四丁目三番地
大阪市東区道修町三丁目十五番地

おじ様へ.

この間 内田さんからあなたの切手をうけとりました。ほんとうにどうもありがとうございました。おじ様は切手を集めているのですか? ここにあなたの切手を入れておきました。その中で日本国際見本市記念という切手がありますがそれは今大阪で開催されているものですのでぜひご覧ください。

さようなら

長 晋



at our "Matsutake-gari" last year -

host's
father
x

our host
x

akira-san
x

Sach-
chan
x

akira-san's
mother
x

me
x

friend
x

x
Miss
Burns

October '53

Kyoto